

中野小学校区東日本大震災合同慰霊祭

たかさGO新聞

東日本大震災の発生から1年が過ぎた3月18日(日)中野小学校の駐車場で「中野小学校区東日本大震災合同慰霊祭」が執り行われました。

海に隣接する同地区では、津波により150人を超える地域住民が犠牲になりました。同地区4町内会で構成する「中野地区復興対策委員会」では、これまで地域の復旧・復興に携わってきた行政・企業・議員とともに慰霊祭の準備を進めてきました。当日は1000名を超える地域住民が参列し、全員で黙とうをささげた後、中野地区関係者と遺族による追悼の言葉が述べられました。各町内会長が犠牲者の名前を一人ずつ読み上げ、建てられた慰霊塔の前で遺族により献花と追悼の祈りが捧げられました。そして、最後に参列者全員が犠牲者の冥福を祈りました。



～岡田の灯り～ 「私たちの言葉」と「音楽」で紡ぐ

3月18日 岡田小学校体育館に集う

震災のあの日。昨年3月11日、岡田地区には大津波が押し寄せ、沿岸に位置する新浜町内会や、南蒲生町内会などで100名を超える地域住民が犠牲になりました。あれから1年、これまで「岡田復興祭」などを開催し、心の復興を通して地域の絆を取り戻そうと若手主体で一丸となつて歩んできた「がんばっぺ岡田の会」が、「犠牲者への追悼の想いを伝えたい」として「復幸への想いを奏でたい・歌いたい」という想いを込めて、『岡田の灯り』『私たちの言葉』と「音楽」で紡ぐ追悼と復幸を願う集いを開催しました。当日は岡田小学校の体育館に地域住民約300人が集まり、14時46分に犠牲者への黙祷を行いました。その後、地域による震災の想いをつづつた詩の朗読や復興への想いを込めたピアノ演奏・岡田合唱団や岡田小学校児童(6年生)の合唱が響きわたりました。



た。続いて、高砂中学校吹奏楽部や習志野竹宵の会・あんべ光俊さんによる演奏などが行われました。最後に震災で亡くなられた方を偲び、300本の竹灯籠に灯りをともしました。参加者全員で手をつなぎ、追悼の意と復興への想いを捧げました。

私たちの言葉と音楽で会場中が一つになった鎮魂と復興への想い

私たちは忘れない。犠牲者をしのんで灯された300本の竹灯籠



東日本大震災慰霊の塔



第6号

平成24年4月10日(火)
【編集発行】
たかさGO新聞編集室
発行人: 葛西淳子
吉田祐也
[E-mail]
takasago.newspaper@gmail.com

南蒲生復興計画 (基本構想) 発表

南蒲生町内会復興部から、仙台市に3月末に提案する南蒲生復興計画(基本構想)が発表されました。その気になる復興計画の中身を一部ご紹介します。

- 南蒲生をつくる5つの夢として
 - 「安心安全」なまち
 - 「つながり」を大切にすまち
 - 「地給地足」を進めるまち
 - 「原風景」を大切にすまち
 - 「生涯現役」を実現するまち
- そして、この夢を実現していくために、5つの基本方針が挙げられています。
- 安心・安全の確保、まちづくりと連動する多様な住まいの確保、宅地と農地の一体的な整備と経営、原風景の再生と資源の活用による交流促進、南蒲生暮らしの魅力

を高め憧れる人の受け入れ等々、住民の意見から作られた復興計画が作成されています。行政の危険区域の線引きにより、現地再建と、移転という立場にある住民が混在している南蒲生町内会。両方の立場を尊重した住民主導による復興への取り組みを進めるため、NPO法人都市デザインワークスからまちづくりコンサルタントの派遣を受けて、毎週水曜日に議論を重ねています。復興部部長の芳賀さんは、「住民のみならずには、復興部の活動にぜひ関心を持ち関わっていただきたい」とおっしゃいます。これらの南蒲生復興部の活動に関しては、岡田地区の復興情報が掲載されている「岡田復興まちづくりブログ」にて、南蒲生復興部の活動が発信されていますので、ぜひチェックしてみてください。

岡田復興まちづくりブログ
<http://blog.canpan.info/okada/>

みんなできくして、みんなでたべよう！ カゴメ・トマトキッチンカーがやってきた！

3月10日(土) 鶴巻児童館で「カゴメ・トマトキッチンカー」によるみちのく支援イベントが開催されました。



かわいいトマトが目印、キッチンカー

会場となった鶴巻児童館には、120名程度の地域のみなさんが集まって、小学生や中学生、乳幼児は親子連れと、大賑わいでした。トマトジュースやケチャップ等でおなじみの(株)カゴメが企画し、NPO法人20世紀アイカイブ仙台の協力のもと、みんなで映画「レミーのおいしレストラン」を観て、一緒にキッチンカーでオムライスをつくって食べようという催しです。



親子でクッキング

また、隣接する仮設住宅の方々も参加していて、「児童館に来るのは初めてだけど、楽しいね」と、出来上がったオムライスを前ににこにこ笑顔です。

震災から1年がたった今も、被災地の子どもたちや住民の皆さんのことを忘れないよというメッセージと、笑顔と元気を届けてくれたトマト・キッチンカー。おなかも満腹、心もほっこりと幸せな気分になった一日でした。

みんな笑顔でつながろう 〜こども えがお みらい〜

3月24日(土) 高砂市民センターにて、地域の民生委員や市民センター職員、地域団体・住民が中心となり、子どもたちと子育て中のお母さんやお父さん、そして家族のみなさんが笑顔で元気に交流し、子どもたちが未来に大きく羽ばたいて欲しいという願いを込め開催されました。当日は、地元のしらとり幼稚園や高砂中学校の子どもたちが合唱や演奏で参加し、700名を超える来場者でおおにぎわい！会場には、大人も子どもも楽しめるコーナーが用意されました。「ピストロ・えがお」では、ミニストローネとホットドッグが振る舞われ、「スマイルカフェ」では、「コーヒーやケーキ・雑貨が提供され、地域住民の憩いの場となりました。

1階の「キッズスクエア」のバルーンアートには子どもたちも大喜び！会場で動物やハートなどに变化したバルーンアートでいっぱいになりました。大人も子供も楽しめる「ステージ」では、仙台市出身のオペラ歌手・浅野和馬さん、大阪プロレス政宗選手、そして六郷と柳生のすずめ踊りのみなさんも駆けつけ、歌にスポーツに踊りにと盛りだくさんの内容でした。今回の企画をした関さんは、「地域のつながりの大切さをあらためて感じさせられました。子どもたちの元気な笑顔を見て、大人も元気になれたのではないのでしょうか」と笑顔で語ってくれました。「子どもたちのため」と大人たちが一丸となつてつくった素敵なお祭りでした。

高砂中学校吹奏楽部の皆さん
恩返しと感謝の気持ちを込めて
演奏しました



冊子

「東日本大震災」 震災で学んだこと、伝えたいこと・宮野地区福室、栄地区ができました！

東日本大震災を受けて、自分たちができる事をしたいと、福室市民センターを活動拠点にしている「高砂おたから探訪の会」のメンバーが、福室・栄地区での震災体験を聞き取りし、このたび冊子にまとめました。とてつもない大災害に続き、ライフラインがストップした状況下での辛い日々の様子、それを凌ぐための知恵、避難所の実態などが描かれています。



「地域の人たちの声や行動を記憶にとどめ、今後防災に役立ててほしいです」聞き取りをした会の代表鈴木力さん。冊子は500部作成。関係者に配布した後、残部を1部200円にてお分けします。詳しくは福室市民センターへお問い合わせください。(786)3540 (月曜休館)

行ってみたい 気になるお店

喫茶エルガー
営業時間 11:00~19:00
日・祝日定休
電話 022(254)6986
仙台市宮城野区鶴巻1-4-28

「喫茶エルガー」と書かれたオレンジ色の看板。鶴巻小学校の北側、鶴巻丁目東公園仮設住宅近くにある、ちよつと隠れたような感じのお店です。コーヒーはもちろん、食事は、タイ、北部チエンマイ地方の好物「チエンマイヌード」が一番人気。スープ、自家製のドレッシング付きのサラダ、そしてフルーツデザートがセットです。店主の遠藤美枝子さんが、タイ出身の友人から教わって日本風にアレンジしたもので、エスニック風味付けで体の中から温まります。



芝居

高砂もりあげ隊 今年もまたまたやって来る！ 扇座復興祭 震災復興公演 『ともの手をとりて』



お待たせしました。今年も扇座がやって来るよ！「このたびは、震災でたいへんだったね」高砂もりあげ隊は、お芝居を通じて、高砂を盛上げるため、とつちゃん、かあちゃん、子どもたちみんなで頑張るよ！震災復興公演、みんなで見に来て下さいん！

日時 5月12日(土)
午後2時開演(開場は30分前)
会場 高砂市民センター
入場無料
【問合せ】千葉まで
090(7665)9683

編集後記

「たかさGO新聞」は、宮城野区東部の仮設住宅やその周辺地域を中心に、地域生活情報復興支援活動をしている方々のお話しや活動の様子。また、復興へ向けての地域の取り組みなどをお伝えしていきたいと思っています。今号は、吉田祐也、葛西淳子が執筆・編集を担当し発行しました。仮設住宅集会所、市民センター等に配架しています。これから地域をつなぐ情報紙として、お役に立つ情報をお届けしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。